

圏外のアンテナ

[京都のヤドカリ]の巻

その日は少し、ドキドキしていた。翌日の撮影に備えて、前夜に京都入りしたものの、いつものホテルが満室で、生まれて初めて、カプセルホテルに宿泊することになったのである。

カプセルホテルといえば、終電に乗り遅れたオジサンが、ほうほうの体で逃げ込む寝床のイメージ。

だが、この「新感覚」カプセルホテルは、おしゃれで清潔な店構えである。

まるで空港のようなチェックイン・カウンターで手渡されたのは、カードホルダーと耳栓。女性専用フロアに入るまでに、2度もセキュリティ・ゲートをタッチさせるという厳重さ。

部屋に鍵はなく、入口はアコーディオンカーテン。2畳間ほどのスペースに、セミダブルベッドとサイドテーブルが置かれ、ベッドの下が鍵付きのセーフティ・ボックスになっている。

早速ベッドに寝転んでみると、ソニーの大型テレビが天井から、見やすい角度で吊り下げられている。くつろげそうじゃないか！

わたしは混雑する前にと、早速シャワールームへ向かった。すると1人用バスタブもある。しかも優雅なジェットバス付きだ。戻り掛けにフロントを覗くと、多種多様な国籍らしき旅行客の、チェックイン待ちの行列ができています。

さて翌朝目覚めると、女性フロア全部が満室になっていた。どうやら耳栓もヘッドホンも使わぬ内に、爆睡してしまったらしい。

鴨長明は、その随想「方丈記」のなかで、一丈四方の庵での生活を「ヤドカリは小さい貝殻を好む。これは、身の程を知っているからである」と書いている。

身の程を知ってか、知らずか…。壁一枚を隔てて、どこの国の人が泊まっているのかさえ気に掛けず、眠りに眠った一夜だった。

さては京都のマジックか？その眠りは、奇妙に静謐（ひつ）で、穏やかな充足感に満ちていた。

=2017年1月17日掲載=



京都・仏光寺通にある新感覚のカプセルホテル「ファーストキャビン」